

兵庫県のククイムシ類

高橋 寿郎

まえがき

ククイムシ類は森林害虫としてよく知られているが、小型であることとあまり見ばえのしないものが多いことから一般的な関心は少なく、兵庫県下にどのような種が分布しているのかといった調査・研究も大変少ない。これからの分野を多く残しているグループであろうと考えられる。

日本に産するククイムシ類はナガククイムシ科2亜科3属8種、ククイムシ科4亜科55属303種(日本産昆虫類目録, I, 1989による)が知られている。

兵庫県からは現在のところナガククイムシ科4種、ククイムシ科57種の産が知られているのみである。此処に兵庫県産ククイムシ類の分布を中心とした産出状況のとりまとめをして見た。

兵庫県産ククイムシ研究史

1. 1875. CHAPUIS, M. M. et EICHHOFF, W. Scolytides recueillis au Japan par. M. G. LEWIS. Ann. Soc. Ent. Belg. XVIII: 195-203.

G. LEWIS 採集になる日本産ククイムシ科19種の記録がある。CHAPUIS と EICHHOFF の共著である。CHAPUIS が6新種、EICHHOFF が11種を記載している。

兵庫県産として次の2新種が記載された。共に CHAPUIS の命名である。本論文が兵庫県のククイムシとしては初めての文献になる。

p. 197. *Hylastes obscurus* = *Hylastes plumbeus* BLANDFORD, 1894 マツノヒロズククイムシ Hiogo.

p. 198-199. *Phloeosinus perlatus* ヒバノククイムシ Hiogo.

2. 1887. SCHONFELDT, H. V. Catalog der Cole-

optern von Japan mit Angabe der bezüglichen Beschreibungen und der sicher bekannten Fundorte.

Jahrb. d. nass. Ver. f. Naturkunde 40: 31-204.

2種のククイムシ科がHiogo産で記録されているが、どちらも1875年記載された(前の報文)種である。

3. 1894. BLANDFORD, W. F. H. The Rhynchophorus Coleoptera of Japan. Part. II. Scolytidae.

Trans. ent. Soc. London, Part. 1: 53-141.

日本産ククイムシ科100種についての論文である。その中に3新属、68新種、1新亜種の記載がある。

兵庫県産は2新種5既知種の記録がある。

p. 56. *Hylastes attenuatus*, ER. マツノホソククイムシ One example, Hiogo (von SCHONFELDT)

P. 57. *Hylastes plumbeus* マツノヒロズククイムシと記載されているが *H. obscurus* CHAP. のことである。Common; taken with *H. parallelus*, also et Nikko, Kobe, etc.

p. 71. *Phloeosinus perlatus*, CHAP. マツノヒロズククイムシ。Hiogo産で記載された種であるとされている(1875)。

p. 73. *Phloeosinus lewisi* CHAP. ヒバノコククイムシ Numerous specimens, Kashiwagi, Chiu-zenji, Kobe and Nowata とある。

Phloeosinus rudis BLANDFORD ヒノキノククイムシ Kobe [新種記載]。

p. 98. *Coccotrypes graniceps*, EICHH. = *Poecilips graniceps* (EICHHOFF, 1877) ドングリククイムシ。One example, Nagasaki; also at Hiogo (von SCHONFELDT)。

p. 115. *Xyleborus sobrinus*, EICHH. のところで, A specimen from Hiogo in Colonel von SCHON-

* 兵庫県甲虫相資料・340

FELDT's collection is not separable from *saxeseni* (サクセスキクイムシ) by any characters とある。

- p. 116. *Xyleborus badius* EICHL. ヌズリハノキクイムシ = *X. torquatus* EICHHOFF の異名と原色日本昆虫図鑑IV, pl. 71, f. 5, p. 305, 1984 になっている。日本産昆虫総目録I, 1989 では *X. volvulus* (FABRICIUS, 1775) ヌズリハノキクイムシとなっている。Hiogo, one example (VON SCHÖNFELDT)

4. 1936. MURAYAMA, J. Notes sur les Scolytides (Coléoptères) de Honshu et Kiushū, Japan.

Tenthredo 1(2):121-149.

本州、九州産のキクイムシ科についての論文で寄主樹木についても言及されている。兵庫県下での記録も次のごとくある。

- p. 122. 3. *Hylastes attenuatus* ERICHSON マツノホソキクイムシ Hiogo [SCHONFELDT, PAR BLAND-FORD]
- p. 123. 5. *Hylurgops glabratus* ZETTERSTEDT マツノカバイロキクイムシ Kobe [J. E. A. LEWIS leg., 19. IV. 1917].
- p. 125. 11. *Phloeosinus perlatus* CHAPUIS ヒバノキクイムシ Kobe.
- p. 127. 16. *Crypturgus pusillus* GYLLENHAL トウヒノホソキクイムシ Kobe [J. E. A. LEWIS leg., 13. IV. 1930]
- p. 128. 20. *Ips proximus* EICHHOFF = *Orthotomicus* マツカワノキクイムシ Kobe [J. E. A. LEWIS leg., 5. X. 1923]

5. 1953. 村山醸造. 松類穿孔虫防除に関する研究. 松樹害虫防除研究報告.

文部省科学試験研究報告No. 6 (日本学術振興会刊)

兵庫県養父郡建屋村内の赤松林を実験林として、そこで被害林を構成する林相並びに植物相、動物相の調査、害虫の生理および生態の研究、被害林

での気象観測とか棲息害虫の種類数量分布調査などをされたものでまとめ、さらに実験林以外での研究調査、例えば中国近畿地方における松の害虫の種類および支配種の調査などもふくまれている。

兵庫県下(姫路, 山崎, 神戸, 香住, 口佐津, 竹野, 大屋, 建屋, 太田, 竜野, 斑鳩, 篠山, 勝間田)の各地で調査した赤松のキクイムシは11種が示されている。(マツノホソキクイムシ, マツノヒロスヂキクイムシ=マツノヒロスジキクイムシ, マツノカバイロキクイムシ, マツノスジキクイムシ, マツノコキクイムシ, マツノキクイムシ, キイロコキノコムシ, カラマツノコキクイムシ, アカマツノコキクイムシ *Cryphalus* = *Hypothenemus*, トドマツノコキクイムシ=トドマツコキクイムシ, タウヒノヒメキクイムシ=トウヒノヒメキクイムシ, タウヒノホソキクイムシ=トウヒノホソキクイムシ, マツノムツバキクイムシ, マツノツノキクイムシ *Ips angulatus* = *Orthotomicus*, カラマツノホソキクイムシ *Ips laricis* FAB. = *Orthotomicus laricis* (FABRICIUS, 1792) カラマツキクイムシ, マツカワノクスイムシ *Ips proximus* = *Orthotomicus*, マツノトゲキクイムシ *Ips* sp. = *Ips multidentatus* (MURAYAMA, 1953), ホンスンキクイムシ *Ips suturalis* (GYLL.) = *Orthotomicus suturalis* (GYLLENHAL, 1827), アカマツザイキクイムシ, サクセスキクイムシ。

実験林内で採集出来たキクイムシは、ツノスジキクイムシ=マツノスジキクイムシ, マツノキクイムシ *Hylophilus piniperda* (LINNEAUS) = *Tomicus*, ヒバノキクイムシ, トウヒノホソキクイムシ, キイロコキクイムシ, トドマツコキクイムシ, マツカワノキクイムシ *Ips proximus* = *Orthotomicus*, マツノツノキクイムシ, ホンスンキクイムシ, アカマツザイノキクイムシ, ハンノキクイムシ *Xyleborus germanus* = *Xylosandrus*, センダツキクイムシ=センダツキクイムシ, アカクビキクイムシ, タキノヤキクイムシ(新種記載)の14種が示されている。

6. 1955. 近畿甲虫同好会編. 原色日本甲虫図鑑. 甲虫篇. 増補改訂版(保育社・大阪)

pl. 68, f. 1584, p. 222.

ルイスナガキクイムシ 兵庫県扇ノ山(V.
1954)産が図説されている(担当 伊賀正汎).

7. 1958. 山本義丸. 兵庫県氷上郡昆虫目録.

氷上の自然 第3集 Natura特別号. A5, 131p.

マツノキクイムシ *Myelophilus piniperda* = *Tomicus*, マツノコキクイムシ *Myelophilus minor* = *Tomicus*, ハンノキクイムシ *Hyleborus germanus* = *Xylosandrus*, キイロコキクイムシ, クスノオオキクイムシが記録されている.

8. 1960. 加辺正明. 日本産クイムシ類の加害樹種と分布. 前橋営林局刊, B5, 175p.

次の兵庫県産クイムシ類の記録がある(主として桑山 覚博士の記録されたもの, 1953).

クイムシ科 マツノホソクイムシ, マツノヒロズクイムシ, マツノカバイロクイムシ, マツノスジクイムシ, マツノコキクイムシ, マツノキクイムシ, ヒバノキクイムシ, ヒノキノクイムシ, キイロフキノコムシ, カラマツコキノコムシ, アカマツノコキクイムシ, トウヒノコキクイムシ(トドマツノコキクイムシ), トウヒノホソクイムシ, カシワノキクイムシ, トウヒノヒメクイムシ, マツノツノキクイムシ, マツノトゲクイムシ, マツカワクイムシ, ホンスンクイムシ, トサクイムシ, ツヤナシザイノキクイムシ, アカマツザイノキクイムシ, ハンノキクイムシ, アカクビクイムシ, ハンノスジクイムシ, タキノヤクイムシ, トドマツオオキクイムシの27種.

ナガキクイムシ科 チュウガタナガキクイムシ, シナノナガキクイムシ, カシノナガキクイムシの記録.

9. 1963. 辻 啓介. 但馬扇ノ山甲虫目録(1).

兵庫農科大学生物研究部部誌(3):24-47.

ナガキクイムシ科 ルイスナガキクイムシ.

クイムシ科 アカマツザイノキクイムシ, タイコンクイムシの記録あり.

10. 1963. 高橋 匡. 出石郡昆虫目録第1報

VITA 創刊号:3-34. (兵庫県立出石高等学校科学部生物班会誌)

シイノホソクイムシ, ヒバノコキクイムシの記録あり.

11. 1970. 仲田元亮. 能勢の昆虫(甲虫).

B5, 107p. (自刊)

アカマツネノキクイムシ=マツノネキクイムシ, マツノヒロスジクイムシ 2種記録.

12. 1972. 辻 啓介・岸田剛二. 但馬扇ノ山の甲虫目録. 扇ノ山周辺の動物(I).

兵庫県自然保護協会調査資料第1集:20-47.

クイムシ科 ルイスザイノキクイムシの記録.

13. 1974. 奥谷禎一. 中国山脈東端の昆虫相. 東中国山地自然環境調査報告:173-233.

(クイムシ, ナガキクイムシ担当. 高橋寿郎・辻 啓介)

クイムシ科 ニホンクイムシ, ニレカワノクイムシ, ハンノカバイロクイムシ, マツノクイムシ *Blastophagus piniperda* LINNE = *Tomicus piniperda* (LINNEAUSSI, 1758), カバイロホソクイムシ, カラマツヤツバクイムシ, アトマルクイムシ, アマツザイノキクイムシ, アカマツザイノキクイムシ, ルイスザイノクイムシ, タイコンクイムシの11種.

ナガキクイムシ科 ルイスナガキクイムシの1種記録.

14. 1974. 久松定成. 本四架橋ルート上の島々の昆虫相(その2).

本州四国連絡橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書(その2)

(国立公園協会刊)

P.92. ウスイロクイムシ 淡路島諭鶴羽山からの記録あり(担当 宮武睦夫).

15. 1975. 高橋 匡. 豊岡高等学校昆虫標本目録

- (第1・2報). 兵庫県立豊岡高校生物教室刊.
トドマツオオキクイムシの記録がある(城崎郡日高町金山峠).
16. 1976. 奥谷楨一. 広域基幹林道地域自然環境調査報告書IV. 昆虫類調査 PP. 57-73.
(兵庫県農林部治山課刊)
播磨基幹林道主たる調査地, 峰山高原, 砥峯高原, 福知溪谷, 須留ヶ峰.
主として遊磨正秀, 奥谷楨一両博士, 甲虫同定は高橋寿郎.
播磨中部高原広域基幹林道 主たる調査地. 加美町三谷, 市原, 鳥羽, 笠形山. 甲虫は高橋寿郎担当.
キクイムシ科 アカマツネノキクイムシ=アカマツザイノキクイムシ, キイロコキノコムシ, ネツカコキクイムシ, タブノコキクイムシ, マツノキクイムシ, トウヒノヒメキクイムシ, ハンノキキクイムシ, アカクビキクイムシ, トドマツオオキクイムシの記録.
17. 1978. 高橋寿郎. 兵庫県神崎郡大河内町川上~砥峯地区の甲虫相.
大河内地点自然環境実態調査報告書: 56~61.
(株)新日本技術コンサルタント刊.
トウヒノヒメキクイムシの記録がある.
18. 1978. 仲田元亮. 能勢の昆虫 I.
B5, 405p. (自刊・単行本)
マツノヒロズキクイムシ, アカマツネノキクイムシ=マツノネノキクイムシ, カバイロホソキクイムシ, タブノコキクイムシ, クスノオオキクイムシ, シイノホソキクイムシ, トドマツオオキクイムシ, アカクビキクイムシ, ハンノキキクイムシの9種記録.
19. 1979. 仲田元亮. 「能勢の昆虫」その後(I).
きべりはむし 7(1): 15-19.
マツノコキクイムシの記録.
20. 1980. 都市緑地研究所 神戸高速道路2号線生態系調査(その1, その2)報告書.
(妙法寺の昆虫). B5, 130p.
ネツカコキクイムシ, トドマツアトマルキクイムシ, クワノキクイムシ, ハンノキキクイムシの記録がある.
21. 1981. 野淵 輝. イチゴのクラウンとクリの実を加害するクリノミキクイムシ.
日本応用動物昆虫学会々誌 25(4): 294-296.
日本から初めての記録であるクリノミキクイムシ *Poecilips cardamoni* (SCHAUFUSS) の採集記録のうち, 33♀♀, 1♂, Akashi, Hyogo, 1973, ex chestnut M. YAMASHITA leg. 8♀♀, Kazumicho, Shirosaki (Kinosaki) Hyogo, 1973 ex chestnut, M. YAMASHITA leg. の兵庫県下からの記録がある.
22. 1982. 高橋寿郎. 神戸市須磨区妙法寺地域の甲虫相.
兵庫生物 8(3): 153-155.
ネツカコキクイムシ, トドマツアトマルキクイムシ, クワノキクイムシ, ハンノキキクイムシの記録あり.
23. 1982. 仲田元亮. 増補改訂 能勢の昆虫.
甲虫の部・下巻. A5, 508p. (自刊).
キクイムシ次の12種の記録あり.
マツノヒロスジキクイムシ, マツノスジキクイムシ, マツノコキクイムシ, アカマツネノキクイムシ=マツノネノキクイムシ, カバイロホソキクイムシ, タブノキコキクイムシ, アトマルキクイムシ, クスノキオオキクイムシ, シイノホソキクイムシ, トドマツオオキクイムシ, アカクビキクイムシ, ハンノキキクイムシ.
24. 1993. 高橋寿郎. 東播磨の甲虫相(1).
きべりはむし 21(2): 37-43.
キクイムシ科11種の記録あり.
マツノネノキクイムシ, キイロキクイムシ, ネツカコキクイムシ, タブノコキクイムシ, ハイマツアトマルキクイムシ, クワノキクイムシ, アカクビキクイムシ, トドマツオオキクイムシ, ハン

ノキクイムシ, トウヒノヒメクイムシ, マツノツノキクイムシ.

25. 1994. 高橋寿郎. 六甲山系を中心とした神戸並びにその近傍の甲虫相.

きべりはむし 22(2): 35-45.

クイムシ科21種の記録.

マツノホソクイムシ, マツノヒロスジクイムシ, マツノカバイロクイムシ, ヒバノコクイムシ, ヒバノクイムシ, ヒノキノクイムシ, トドマツノクイムシ, キイロコキノコムシ, ネットカコクイムシ, カシワノクイムシ, トウヒノホソクイムシ, ハイマツアトマルクイムシ, トドマツアトマルクイムシ, クワノキクイムシ, シイノホソクイムシ, サクセスクイムシ, トドマツオオクイムシ, ユズリハノクイムシ, ハンノキクイムシ, トウヒノヒメクイムシ, マツカワノクイムシ.

26. 1995. 藤倉正昭. 私版. 淡路の昆虫リスト(2).

PARNASSIUS (42): 1-5.

三原郡八木養宜からツツミクイムシの記録.

兵庫県産クイムシ類目録

Family Platypodidae ナガクイムシ科

Subfamily Diaporinae トゲナガクイムシ亜科

1. *Platypus lewisi* BLANDFORD, 1894

ルイスナガクイムシ

BLANDFORD により "Miyanoshita, Kiga and Yuyama" 産 5 標本に基づいて記載された (Trans. ent. Soc. London, 1894, part.1: 134-136, 1894).

種名にあるように LEWIS に献名されている。♂の腹部腹板第4節には後方にのびる2本の長刺をそなえている。わりと大きな種で(体長5.5-5.8 mm)よく知られている。

加害樹種としてクリ, コナラ, トチノキ, ミズナラ, モンゴリナラ, ブナノキ, ミズメ, ヨグソミネバリ, イチイガシ, アラカシ, ハリギリ, ス

ギが知られている(加辺, 1960).

分布は北海道, 本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, 台湾, 中国, インドと広く知られているが兵庫県下からは扇ノ山が知られているだけである。

産地. 美方郡扇ノ山[伊賀, 1955, 辻, 1963, 辻, 岸田, 1972].

2. *Platypus modestus* BLANDFORD, 1894

チュウガタナガクイムシ

Nikko, Shimidzu Toge産 Four specimens によって記載された種(採集者は G. Lewis) (I. C., P. 133-134). 加害樹種としてミズナラ, ブナノキ, トチノキ, オニグルミ, カツラが知られている(加辺, 1960).

兵庫県下では山崎の記録を知るのみである。

分布は本州, 九州, 台湾。

産地. 宍粟郡山崎[MURAYAMA, 9. VI. 1953, 加辺, 1963].

3. *Platypus querivorus* (MURAYAMA, 1925)

カシノナガクイムシ

村山醸造博士が *Crossotarsus* 属で記載された (Jour. Coll. Agr., Hokkaido Imp. Univ., Sapporo, Vol. XV, Pt. 4, pp. 197-228, 1925). イチイガシ, ウラジロガシ, アカガシ, アラカシ, ツクバネカシ, マテバシイ, スダジイ, ニタリジイを加害植物にあげ, 特にカシ類の伐倒木で未乾燥状態のものを好む, また立木の老衰せるものあるいは何等かの原因で衰弱せるものを選んで寄生するものであって, 普通は生長旺盛なものや幼齢木には被害が少ないとある(井上元則, 1953).

野淵 輝博士は加害植物: 各種広葉樹・スギとされている(1984).

産地. 城崎郡城崎[J. NAKAHARA, 15. XI. 1952, 加辺, 1960], 日高[M. KABE, 1. VI. 1956, 加辺, 1960].

4. *Platypus severini* BLANDFORD, 1894

シナノナガクイムシ

BLANDFORD により "Numerous examples of one sex only, taken from beech at Nikko, and Hakodate" 産で記載された (I. C., P. 136-137, 1894).

加害植物としてブナ、シナ、ハンノキ、シオジ、ヤブツバキ、クマシデ、トチ、カシ等が示されている(井上, 1953).

加辺正明博士は加害樹種としてブナノキ、トチノキ、サクラ類、シオノキ、ハンノキ、シオジ、イタヤカエデ、ヤブツバキ、クマシデをあげられている(1960).

産地. 宍粟郡山崎[MURAYAMA, 9. VI. 1953, 加辺, 1960]

Family Scolytidae キクイムシ科

Subfamily Scolytinae キクイムシ亜科

1. *Scolytus frontalis* BLANDFORD, 1894

ニレカワノキクイムシ

BLANDFORD により "Three examples taken at Fukushima" 産で記載されている (G. LEWIS の採集品) (1874).

加害植物はケヤキ、ハルニレとある(加辺, 1960). 野淵博士はケヤキ、カシワ、サクラを示しておられる(1984). 分布は本州、四国、九州、台湾とある.

産地: 養父郡水の山 (5exs., 25. VII. 1959)* [高橋, 辻, 1974].

2. *Scolytus japonicus* CHAPUIS, 1875

ニホンキクイムシ

CHAPUIS により "Nipon et Kiushiu" 産 G. LEWIS 採集 1 個体によって記載された (1875).

加害樹種はケヤキ、ハルニレ、スモモ、リンゴ、サクラ、ウメが知られている(加辺, 1960).

分布は広く日本全土、朝鮮半島、シベリア、モンゴル、中国東北部.

産地. 宍粟郡音水 (1ex., 10. V. 1970) [高橋, 辻, 1974].

Subfamily Hylesininae カワノキクイムシ亜科

3. *Sphaerotrypes pila* BLANDFORD, 1894

ケブカマルキクイムシ

BLANDFORD により "Hitoyoshi, several examples; it has occurred in the thin bark of a

camellia" 標本により記載された (1894).

加害樹種としてアカシデ、シラカシ、イスノキ、クヌギ、ツバキが知られている(加辺, 1960).

この種は円い体形が特長.

産地. 相生市三濃山 (1ex., 3. V. 1974).

4. *Hylastes attenuatus* ERICHSON, 1836

マツノホソキクイムシ

加害樹種はハイマツ、アカマツとされている(加辺, 1960). 井上はサクラ、ウラジログシを示している(1953). 野淵博士は日本では稀な種とされている(1984).

産地. Hiogo [SCHONFELDT, PAR BLANDFORD, 1894]

[加辺, 1960]. 兵庫: 瀬戸内海斜面 [村山, 1953]**.

5. *Hylastes plumbeus* BLANDFORD, 1894

マツノヒロズキクイムシ

G. LEWIS が Nagasaki と Hiogo で採集した標本に基づき *Hylastes obscurus* CHAPUIS と新種記載 (1875) された種を BLANDFORD は *Hylastes plumbeus* と新種記載してこの種のシノニムにした (1894). 同時に "Common; take with *H. parallelus*, also at Nikko, Kobe, & C." と記している.

加害樹種はアカマツ、ヒノキが知られている(加辺, 1960).

野淵博士は加害樹種にカラマツ、アカマツ、クロマツ、ハイマツ、ヒノキ、エゾマツを示されている (1984).

産地. 川西市大和 [仲田, 1970, 1978, 1982]. Hiogo

[CHAPUIS, 1875, BLANDFORD, 1894]. 神戸市 [G. LEWIS, 加辺, 1960]. 兵庫県瀬戸内海斜面 [村山, 1953].

* () の中のものは筆者の採集したものでその標本は原則として県立人と自然の博物館に保管されている.

** 註 瀬戸内海斜面. 姫路. 山崎. 神戸. 太田. 竜野. 斑鳩 (太子町). 篠山. 勝間田. 柏原. 日本海斜面. 香住. 口佐津. 竹野. 養父郡建屋を意味する (以下同じ).

6. *Hylurgops glabratus* (ZETTERSTEDT, 1828)

マツノカバイロキクイムシ

加害樹種はトウヒ、アカマツ、ヒメコマツ、チョウセンマツが知られている(加辺, 1960).

野淵博士はトドマツ、トウヒ属、アカマツ、チョウセンゴヨウ、ヒメコマツを加害樹種に示している(1994).

産地. Kobe [J. E. A. LEWIS, 19. IV. 1917, 村山, 1936, 加辺, 1953].

7. *Hylurgops interstitialis* (CHAPUIS, 1875)

マツノスジキクイムシ

加害樹種としてアカマツを掲げている(加辺, 1960). 井上元則はマツノケバキクイとして本州(山形県)に産し加害樹種クロマツとしている(1953). 野淵博士は加害樹種、アカマツ、クロマツとして分布は本州、ヨーロッパ、北アメリカとされている(1984).

産地. 川西市大和[仲田, 1970, 1978, 1982]. 多可郡鳥羽(3exs., 6. IX. 1975).

8. *Hylurgus ligniperda* (FABRICIUS, 1792)

マツノネノキクイムシ

加害樹種としてアカマツを掲げている(1960). 井上元則はマツノケバキクイとして本州(山形県)に産し加害樹種クロマツとしている(1953). 野淵博士は加害樹種アカマツ・クロマツとして分布は本州、ヨーロッパ、北アメリカとされている(1984).

産地. 川西市大和[仲田, 1970, 1978, 1982], 多可郡鳥羽(3exs., 6. IX. 1975).

9. *Tomicus minor* (HARTIG, 1834)

マツノコキクイムシ

CHAPUIS は *Blastophagus minor* HARTM. として M. LEWIS が日本で採集していると記録されている(1875). BLANDFORD は *Myelophilus minor*, HART. として日本からの記録は間違つて(中国からもつて帰った標本で)記録されていたが G. LEWIS が長崎近くで得た標本があるとされている(1984).

属名は現在 *Tomicus* が用いられている。分布

が大変広い種で(日本以外、サハリン、シベリア、朝鮮半島、台湾、中国、ヨーロッパ、アフリカ).

加害樹種はドイツトウヒ、クロマツ、アカマツ、チョウセンゴヨウなど *Pinus* 属各種に寄生することのこと。

産地. 川西市笹部[仲田, 1979, 1982]. 氷上郡[山本, 1958]. 兵庫・口佐津[MURAYAMA, 28. VI. 1948, 加辺, 1960]. 兵庫日本海斜面[村山, 1953].

10. *Tomicus piniperda* (LINNAEUS, 1758)

マツノキクイムシ

CHAPUIS は *Blastophagus piniperda*, FABR. として日本から記録(1875). BLANDFORD は *Myelophilus piniperda*, FABR. として "Nagasaki and Oyayama, both in Kiushiu" から記録している(1894).

ELLA ZIMSEN の "The Type Material of I. C. FABRICIUS" (1964) の中にはこの種は出てこない。

日本の学者が用いた(MURAYAMA, 1936, 1953, 井上, 1953, 加辺, 1960), 命名者は LINNAEUS に扱われている。

加害樹種はアカマツ、クロマツ、チョウセンマツ、ストロブマツが知られている(加辺, 1960).

野淵 輝博士はドイツトウヒ、クロマツ、アカマツ、チョウセンゴヨウを示されている(1984).

本種は分布が大変広い。

産地. 多可郡鳥羽[奥谷, 高橋, 1976]. 氷上郡[山本, 1958]. 兵庫. 瀬戸内海斜面, 日本海斜面[村山, 1953]. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953, MURAYAMA, 1. VII. 1951, 加辺, 1960], 氷の山[高橋, 辻, 1974].

11. *Almiphagus constatus* (BLANDFORD, 1894)

ハンノカバイロキクイムシ

BLANDFORD が "Junsai; one specimen" でもつて *Hylesinus costatus* として記載された(1894)種である。

加害樹種としてアオダモ、ヤチダモがあげられており(加辺, 1960), 野淵 輝博士は加害樹種としてシラカンバ属、ハンノキ属、オガラバナを示されている(1984).

分布はやや北に分布しているようでサハリン、千島列島、シベリアに及んでいる。

産地。宍粟郡音水(lex., 10. V. 1970) [高橋, 辻, 1963].

12. *Phloeosinus lewisi* CHAPUIS, 1875

ヒバノコキクイムシ

原記載には特に産地名が示されていない(1875).

BLANDFORD は "Numeros specimens, Kashiwagi, Chiuzenji, Kobe and Nowata. Varies in size from 1.8 to 2.3mm" と記している(1894). BLANDFORD が "One example, Ichiuchi" と記載した *Phloeosinus minutus* (1894) は本種の異名である(野淵, 1984).

本種の加害樹種はブナノキ, ミズキ, カエデ類が示されている(加辺, 1960). 野淵博士はスギ, ヒノキ, サワラ, アスナロなどを示している(1984).

産地。Kobe [BLANDFORD, 1894]. 神戸市鳥原(lex., 4. IV. 1974). 出石郡出石町小人 [高橋, 1963].

13. *Phloeosinus perlatus* CHAPUIS, 1875

ヒバノキクイムシ

CHAPUIS により G. LEWIS が Hiogo で採集された標本で *Phloeosinus perlatus* として記載された種(1875). BLANDFORD は原記載は兵庫産であるが 1乃至2の新鮮な標本で産地がはっきりしないものが手許にあると記している(1894).

加害樹種はヒノキ, ヒバ, スギ, ビャクシン, ベニヒ, イチイが示されており(加辺, 1960), 野淵 輝博士はイチイ, スギ, ヒノキ, サワラ, ベニヒ, アスナロ, ビャクシンを加害樹種にあげている(1984).

産地。Kobe [G. LEWIS, CHAPUIS, 1875, BLANDFORD, 1894]. 出石郡出石町小人 [高橋, 1963]. 但馬 [村山, 1949]. 養父郡建屋 [竹内, 村山, 1953. MURAYAMA, 17. VIII. 1948, 加辺, 1960].

14. *Phloeosinus rudis* BLANDFORD, 1894

ヒノキクイムシ

BLANDFORD が "Kashiwagi and Kobe" 産で新種記

載された。加害樹種としてヒノキ, ヒバ, ビャクシン, ベニヒ, イチイ, スギが知られている(加辺, 1960). 野淵博士はイチイ, スギ, ヒノキ, ベニヒ, ネズコ, アスナロ, ビャクシンを加害樹種に示されている。分布は日本以外, 朝鮮半島, フランスが知られている(1984).

産地。Kobe [BLANDFORD, 1894]. 城崎郡香住 [MURAYAMA, 29. VIII. 1948, 加辺, 1960].

15. *Polygraphus nigriclytrix* NIJIMA, 1935

ナナカマドノキクイムシ

加害樹種としてナナカマド(加辺, 1960., 井上, 1963)が示されている。中根猛彦博士は "サクラ, ナナカマド, 樹皮下性" としてカラーで図説している(原色日本昆虫大図鑑, 第2巻, pl. 191, f. 23, p. 382, 1963).

産地。相生市三湊山(lex., 3. V. 1974).

16. *Polygraphus proximus* BLANDFORD, 1874

トドマツクイムシ

BLANDFORD により "Two examples, Sapporo" 産で記載された。加害樹種としてアオモリトドマツ, トドマツ, エゾマツ, モミ, チョウセンハリモミ, トウシラベ, シキミが知られている(加辺, 1960).

分布は広く日本以外サハリン。朝鮮半島, シベリア, 中国と北方系の種のような。モミ(属)ほか針葉樹を加害している種である。

産地。神戸市鳥原(lex., 4. IV. 1954).

Subfamily Ipinae ザイノキクイムシ亜科

17. *Cryphalus fulvus* NIJIMA, 1907

キイロコキクイムシ

本種は好んで衰弱木に寄生してこれを枯死させ, また新鮮な伐倒木にも寄生するとし, 被害植物にアカマツ, クロマツ, チョウセンマツ, リキダマシ, マンシュウクロマツが知られており, 本州の松喰虫中の重要種に数えられ, その被害甚大なものがあるとある。

産地。神戸市鳥原(lex., 9. III. 1975). 多可郡鳥羽 (5exs., 29. IV. 1972) [奥谷, 高橋, 1976]. 氷上郡 [山本, 1958]. 養父郡建屋 [竹内, 村山, 1953.,

MURAYAMA, 17. VIII. 1948, 加辺, 1960]. 兵庫・瀬戸内海斜面, 日本海斜面[村山, 1953].

18. *Cryphalus jeholensis* MURAYAMA, 1939

ネツカコキノコムシ

前記キイロコキクイムシと同じような所に発見されるため混同しやすいが, 体は黒褐色で目の前頭の竜骨状突起の上部は隆起する。

加害樹種としてはモミ, クロマツ, アカマツ, 欧州クロマツ, マンシュウクロマツが知られている(加辺, 1960)。

産地. 神戸市妙法寺(lex., 25. IV. 1979). 多可郡鳥羽(lex., 26. VII. 1975) [奥谷, 高橋, 1976].

19. *Cryphalus laricis* NIJIMA, 1909

カラマツノコキクイムシ

加害樹種はアカマツ, クロマツ, カラマツ, トドマツ, エゾマツ, アカトドマツ, チョウセンマツ, 米松, オウシュウアカマツが知られている(加辺, 1960)。

分布は北海道, 本州, 朝鮮半島とあまり広くない。

産地. 城崎郡香住[MURAYAMA, 29. VII. 1948, 加辺, 1960]. 兵庫・日本海斜面[村山, 1953].

20. *Cryphalus piceae* (RATBURG, 1837)

トドマツコキクイムシ

野淵 輝博士によるとトドマツコキクイムシはトウヒノコキクイムシの異名であるとされている(1984)。さらに *Cryphalus hattorii* Kōno は本種の異名であると。ここでは総目録(1989)に従ってトドマツコキクイムシを用いた。

加害樹種はアオモリトドマツ, トウヒ, モミ, アカマツ, エゾマツ, アカトドマツ, アカエゾマツが知られている(加辺, 1960)。

産地. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953, 〇_{TA}, 18. IX, 19. VIII. 1948, 加辺, 1960]. 兵庫: 瀬戸内海斜面, 日本海斜面[村山, 1953].

21. *Hypothenemus oblongus* (NIJIMA, 1910)

アカマツノコキクイムシ

新島善直博士が東京産で *Cryphalus oblongus* と記載された(Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. Vol. III, 1910)。

加害樹種はクロマツ, アカマツが知られている(加辺, 1960)。

産地. 兵庫・佐津[MURAYAMA, 28. VII. 1948, 加辺, 1960]. 兵庫・日本海斜面[村山, 1953].

22. *Scolytogenes badius* (NOBUCHI, 1975)

クリイロコキノコムシ

BLANDFORD が "Hiogo, one example (von SCHÖNFELDT)" の標本で *Xyleborus badius*, EICHM. として記録された(Trans. ent. Soc. London, Part. 1 : 116, 1874)種がこの種に当たるのではと思われるがよくわからない。

産地. Hiogo, one example (von SCHÖNFELDT) [BLANDFORD, 1894].

23. *Scolytogenus expers* (BLANDFORD, 1894)

タブノコキクイムシ

"Two examples, Kumamoto and Nagasaki" 産で *Hypothenemus expers* BLANDFORD として新種記載された種である(1894)。

中根猛彦博士により各種広葉樹, 枝梢性としてカラーで解説されている(1963)。

産地. 川西市笹部[仲田, 1978, 1982]. 多可郡鳥羽(lex., 29. IV. 1972) [奥谷, 高橋, 1976].

24. *Trypodendron signatum* (FABRICIUS, 1782)

カシワノキクイムシ

本種はヨーロッパ産で記載された種であると思われる。E. ZIMSEN の "The Type of Material of I. C. FABRICIUS" (Copenhagen, 1964) を見るとその p. 187 に 3189. *Apate signatus* Ent. Syst. I, 2, p. 362, 12 "in Germania Dom. Smidt." (Syst. El. II, 383-22) - Kiel 1 specimen (*Trypodendron signatum* F. ♂ Egger det. 1928) とある。

井上元則によると加害樹種はカシワ, ナラ, ニレ, ブナとしていて学名は *Xyloterus signatus* FABRICIUS VAR. *japonicus* BLANDFORD となっている

(1953). 北海道南部地方では年2回繁殖するのが普通であるとも記している(p. 191).

産地. 神戸市鳥原(1ex., 27. III. 1969). 兵庫. 宍粟郡山崎[MURAYAMA, 9. VI. 1953, 加辺, 1960].

25. *Crypturgus pusillus* (GYLLENHAL, 1813)

トウヒノホソクイムシ

加害樹種はアカマツ, トウヒ, エゾマツ, トウシラベ, トドマツ, チョウセンアカマツが示されている(加辺, 1960).

分布は大変広い. 日本(北海道, 本州)以外朝鮮半島, サハリン, 千島列島, シベリア, 台湾, ヒマラヤ, ヨーロッパ, アフリカとなっている.

産地. Kobe[J. E. A. LEWIS, 13. IV. 1930, 村山, 1936, 加辺, 1960]. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953. MURAYAMA, 17. VIII. 1948, 加辺, 1960]. 兵庫・瀬戸内海斜面, 日本海斜面[村山, 1953].

26. *Crypturgus tuberosus* NIJIMA, 1909

カバイロホソクイムシ

加害樹種はエゾマツ, アカマツ(加辺, 1960). 井上元則はエゾマツ, アカエゾマツ, ハイマツ, トドマツとしている(1953). 井上はなぜか分布は北海道, 樺太だけとなっている. 野淵博士は加害樹種をトドマツ, アカエゾマツ, エゾマツ, ドイツトウヒ, アカマツ, ハイマツとして分布は北海道, 本州, サハリン, シベリアとされている(1984).

産地. 川西市笹部[仲田, 1978, 1982]. 養父郡氷の山(2exs., 25. VII. 1959)[高橋, 辻, 1974].

27. *Drypocoetes pini* NIJIMA, 1909

ハイマツアトマルクイムシ

加害樹種としてモミ, ツガ, トウヒ属(*Picea*), カラマツ, ハイマツ, チョウセンゴヨウが示されている(野淵, 1984).

分布は北海道, 本州, 四国, 朝鮮半島, サハリン.

産地. 川辺郡猪名川町槻並(1ex., 2. VIII. 1978). 神戸市北区藍那(1ex., 17. III. 1993). 多可郡鳥羽(1ex., 6. IX. 1975)[奥谷, 高橋, 1976].

28. *Drypocoetes rugicollis* EGGERS, 1926

アトマルクイムシ

加害樹種としてモミ属(*Abies*), トウヒ属(*Picea*), コメツガ, カラマツ, マツ属(*Pinus*)が示されている(野淵, 1984).

産地. 川西市大和[仲田, 1982]. 宍粟郡音水(1ex., 20. VII. 1959)[高橋, 辻, 1974].

29. *Drypocoetes striatus* EGGERS, 1933

トドマツアトマルクイムシ

加害樹種はトドマツ, シラベが知られており, 分布は北海道, 本州, サハリン, シベリア, 中国東北部である(野淵, 1984).

産地. 神戸市妙法寺(1ex., 23. V. 1979).

30. *Poecilips cardamomi* (SCHAUFUSS, 1905)

クリノミクイムシ

加害樹種アカマツ, クリの実, イチゴのクラウンが示されている(野淵, 1984).

この種が日本から初めて発見された経緯その他は野淵 輝博士が詳しく説明しておられる(1981).

産地. 33♀♀, 1♂♂, Akashi, Hyogo, 1873, ex. chestnut M. YAMASHITA leg., 8♀♀, Kazumicho, Shiroasaki (Kinosaki), Hyogo, 1973, ex. chestnut, M. YAMASHITA leg. [NOBUCHI, 1981].

31. *Poecilips graniceps* (EICHHOFF, 1877)

ドングリクイムシ

BLANDFORD が "One example, Nagasaki; also at Hiogo (VON SCHONFELDT)" として *Coccotrypes graniceps*, EICHH. で記録している(1894).

前記クリノミクイムシとよく似ているが, 前頭に前顔から複眼を結んだ線の上方までのびる高い竜骨状隆起をそなえるとある(野淵, 1984).

産地. Hiogo[VON SCHONFELDT, BLANDFORD, 1894]

32. *Cnestus murayamai* SCHEDL, 1962

ウスキイロクイムシ

加害樹種はスギ, クスノキ, タブノキ, クリ, ネムノキ, アブラギリ, モミジ, トチノキ, ミカ

ンが知られている。

Tosaxyleborus pallidipennis MURAYAMA は本種の異名である(野淵, 1984)。

産地. 三原郡諭鶴羽山[宮武, 1974].

33. *Xyleborus adumbratus* BLANDFORD, 1894

ツヤナシザイノキクイムシ

"Eight examples taken at Nagasaki, Hitoyoshi, Oyama and Subashiri"標本で BLANDFORD が記載した(1894)。

加害樹種はブナノキ, ツブラジイ, シイ, サカキ, イスノキ, ソヨゴ, アカガシ, ウラジロガシ, ヤマザクラ, シラカシ, ネムノキ, ホオノキ, タブ, シュロ, モミ, ヒノキ, アカマツと多い(加辺, 1960)。

分布も日本以外朝鮮半島, アンダマン諸島, ドイツと広い。

産地. 兵庫. 下里[MURAYAMA, 23. XI. 1950]. 養父郡建屋[TAKEUCHI, VI. 1950, 加辺, 1960].

34. *Xyleborus amputatus* BLANDFORD, 1894

ツツミキクイムシ

加害樹種としてヤマウルシ, アカメガシワ, ツブラシイ, タブ, ブナノキ, カゴノキ, ヒメシヤラ, イチジクが知られている(加辺, 1960)。

野淵博士は加害樹種として各種広葉樹, スギを示されている(1984)。

産地. 三原郡八木養宜[藤富, 1995].

35. *Xyleborus aquilus* BLANDFORD, 1894

アカマツザイノキクイムシ

BLANDFORD により"Six examples taken at O-yayama and Hitoyoshi in Kiushiu, one near Kashiwagi"産で記載された(1894)。

加害樹種はスギ, アカマツ, ヒノキ, モミ, ミズナラ, ヤマザクラ, ソヨゴ, カツラ, ウリハダカエデ, ホオノキ, ケヤキ, エゴノキ, アカメガシワ, サカキ, ヨグソミネバリなど多く示されている(加辺, 1960)。

分布は本州, 四国, 九州, 朝鮮半島, 台湾, 中国. 兵庫県にも中央部から北の地域に産するよう

である。

産地. 多可郡鳥羽[奥谷, 高橋, 1961]. 兵庫・日本海斜面[村山, 1953]. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953, MURAYAMA, 30. VII. 1948, 加辺, 1960]. 美方郡扇ノ山[辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 辻, 1974].

36. *Xyleborus atratus* EICHHOFF, 1875

クワノキクイムシ

BLANDFORD は"A few more specimens taken at Kiga and Nagasaki"として日本から初めて記録した(1894)。

加害樹種はクスノキ, サカキ, シイ, モンゴリナラ, クワ, ハルニレ, ハンノキ, オノオレカンパ, アカガシ, ヤマザクラ, オキナワマツが示されている(加辺, 1960)。

分布も広い. 兵庫県下にも広く分布しているように思われる。

産地. 川辺郡猪名川町槻並(2exs., 4. V. 1979). 神戸市藍那(1ex., 10. V. 1979, 1ex., 4. X. 1979), 妙法寺(1ex., 25. IV. 1979). 多可郡鳥羽(1ex., 29. IV. 1972)[奥谷, 高橋, 1976].

37. *Xyleborus defensus* BLANDFORD, 1894

シイノホソクイムシ

BLANDFORD により"One specimen, Sapporo"産で新種記載された(1894)。

加害樹種はミズナラ, シイが示されている(加辺, 1960). 分布は北海道, 本州, 四国, 九州と日本からのみ知られている. 県下には広くいるようである。

産地. 川西市一庫[仲田, 1978, 1982]. 神戸市烏原(1ex., 26. VIII. 1970), 下谷上(1ex., 23. VIII. 1978). 出石郡但東町中藤[高橋, 1963].

38. *Xyleborus lewisi* BLANDFORD, 1894

ルイスザイノキクイムシ

BLANDFORD により"Nikkon, Hakone, Miyano-shita, nine specimens"標本で新種記載された(1894). 種名は採集者 G. LEWIS に献名されている。

加害樹種はミズナラ、コナラ、ブナノキ、シイ、シラカシ、アラカシ、ウラジロガシ、アワブキ、ヒナウチワカエデ、ソヨゴ、ソメイヨシノ、コブシ、ヨグソミネバリ、ケヤキ、タブ、ヤマザクラ、アオハダ、アカガシ、アカシデ、エゴノキ、ヤブツバキ、ヒメシヤラ、モミ、カラマツと大変多く示されている(加辺, 1960)。

分布も日本以外朝鮮半島、台湾、東南アジア、インドと広い。兵庫県下の記録はあまりない。

産地。宍粟郡福知溪谷(lex., 3. VI. 1975, M. YUMA leg.) [奥谷, 1976]。美方郡扇ノ山[辻, 岸田, 1972, 高橋, 辻, 1974]。

39. *Xyleborus multilatus* BLANDFORD, 1894

クスノキオオキクイムシ

BLANDFORD により "One example, without locality" をもって新種記載された(1894)。

加害樹種としてツブラジイ、ヤマウルシ、ノグルミ、クリ、ネムノキ、クスノキ、アカシデ、エゴノキ、カナクギノキ、ブナノキ、カエデが示されている(加辺, 1960)。

分布は日本全土以外朝鮮半島、台湾、東南アジアが知られている。

産地。川辺郡猪名川町木間生[仲田, 1978, 1982]。

川西市笹部[仲田, 1978, 1982]。氷上郡[山本, 1958]。

40. *Xyleborus praeivius* BLANDFORD, 1894

センダツキクイムシ

BLANDFORD により "One example, without locality" として新種記載された(1894)。

加害樹種はソメイヨシノ、ヤマモミジ、ユズリハ、タカオカエデが示されている(加辺, 1960)。

産地。養父郡建屋[竹内, 村山, 1953]。

41. *Xyleborus rubicollis* EICHHOFF, 1875

アカクビキクイムシ

BLANDFORD はその論文の中で(1894) "No further examples taken" として種名と原記載を示された。

加害樹種としてはトチ、アカガシ、コジイ、ヤ

マウルシ、シラカシ、アカメガシワ、カラスザンショウ、クリ、ソヨゴ、ヤマモモ、モチノキ、ヤマグワ、ケンボナシ、タブ、センダン、イボタ、ヤマハンノキが示されている(加辺, 1960)。

産地。川西市大和[仲田, 1978, 1982]。多可郡鳥羽(lex., 19. VII. 1975) [奥谷, 高橋, 1976]。養父郡建屋[竹内, 村山, 1953, MURAYAMA, 11. VII. 1951, 加辺, 1960]。

42. *Xyleborus saxeseni* (RATZBURG, 1937)

サクセスクイムシ

加害樹種、エゴノキ、ケヤキ、シイ、ヤマザクラ、クロバイ、アカメガシワ、ヒサカキ、サカキ、クスノキ、アカシデ、シラカシ、アオガシ、カナクギノキ、シオジ、タブ、ネムノキ、カツラ、ブナノキ、ホオノキ、アコウ、ヤマナラシ、イタヤカエデ、イチイガシ、ヒノキ、ヒバ、トウヒ、モミ、スギ、チョウセンマツ、ツガと多く示されている(加辺, 1960)。

産地。兵庫・瀬戸内斜面[村山, 1953]。

43. *Xyleborus seriatus* BLANDFORD, 1894

ハンノスジクイムシ

BLANDFORD により "Two examples taken at Nikko and Miyanoshita" 標本に基づいて新種記載されたものである(1894)。

加害樹種はハンノキ、ブナノキ、ハゼノキ、ダケカンバ、ウラジロガシ、ミズナラ、ヤマザクラ、ミズメ、アカメガシワ、トチノキ、ハリギリ、ウワミズザクラ、シナノキ、ホオノキ、イヌシデ、サカキ、ヨグソミネバリ、ウリハダカエデ、モミ、コメツガ、ゴヨウマツ、ヒメコマツ、クロマツ、スギ、ヒノキ、サクラ、ネズコ、ツガと大変多く示されている(加辺, 1960)。

産地。兵庫・宍粟郡山崎[MURAYAMA, 8. VII. 1953, 田辺, 1960]。

44. *Xyleborus takinoyensis* MURAYAMA, 1953

タキノヤキクイムシ

この種は村山醸造博士が兵庫県養父郡建屋で得られたもので新種記載されたものである(1953)。

加害樹種は原記載にもあるようにクリである。

産地。養父郡建屋[村山, 1953, MURAYAMA, 11. VIII. 1951, 加辺, 1960].

45. *Xyleborus validus* EICHHOFF, 1875

トドマツオオキクイムシ

BLANDFORD が北海道の札幌から九州の Nagasaki, Oyayama 迄 Nikko とか Miyanoshta などふくんだ産地で大変多くの標本を得たとして上記学名で記録された(1894).

加害樹種としてブナノキ, トチノキ, ミズナラ, クリ, ハクウンボク, リョウブ, コシアブラ, ウリハダカエデ, カエデ, アカメガシワ, キハダ, ウワミズザクラ, アオハダ, ケヤキ, オニグルミ, イヌシデ, ミズメ, シナノキ, トキワカエデ, アブラチャン, ホオノキ, ユクノキ, ヨグソミネバリ, サカキ, アカマツ, クロマツ, ヒメコマツ, ゴヨウマツ, モミ, イヌガヤ, スギ, ヒノキ, ヒバ, ネズコ, ツガと大変多く示されている(加辺, 1960). 兵庫県下にも広く産する。

産地。川西市大和[仲田, 1982]. 神戸市烏原(1ex., 5. VI. 1976), 藍那(13exs., 17. III. 1993). 多可郡鳥羽(1ex., 29. IV. 1972)[奥谷, 高橋, 1976]. 宍粟郡山崎[MURAYAMA, 9. VI. 1953, 加辺, 1960], 原(1ex., 11. V. 1978), 赤西(4exs., 21. V. 1979, 2exs., 3. V. 1979, 1ex., 23. VI. 1979), 音水(1ex., 13. VII. 1968, 2exs., 11. VI. 1970, 1ex., 11. VI. 1972, 2exs., 13. V. 1973). 城崎郡日高町金山[高橋, 1975]. 養父郡氷の山[TAKEUCHI, 27. V. 1953, 加辺, 1960].

46. *Xylosandrus crasiussculus* (MOTSCHULSKY, 1866)

サクキクイムシ

野淵 輝博士によると *Xyleborus semiopacus* EICHHOFF, サカクレノキクイムシ *Xyleborus ebriosus* NIJIMA は共に本種の異名であると。加害樹種は各種広葉樹, モミ, ツガ, アカマツ, ヒノキと示されている(1984). 分布も広く日本全国, 東南アジア, オーストラリアを除く大洋州, インド, アフリカとある。

産地。相生市三湊山(1ex., 7. V. 1972).

47. *Xylosandrus germanus* (BLANDFORD, 1894)

ハンノキクイムシ

"Oyayama, Nikko, Subashiri, Kiga, Miyanoshta"産で BLANDFORD が普通に見られるとして *Xyleborus germanus* BLANDFORD として新種記載をした。

加害樹種はヤマウルシ, エゴノキ, クリ, ブナノキ, センダン, ハンノキ, ヤマザクラ, ツバキ, リョウブ, シラカシ, ウラジロガシ, アラカシ, ツクバネガシ, アブラチャン, ミズナラ, キハダ, アワブキ, ヤマガキ, ウワミズザクラ, ケヤキ, イヌシデ, アカメガシワ, イタヤカエデ, オニグルミ, シキミ, ヤマナラシ, サカキ, ヤマモモ, トチノキ, シイ, ホオノキ, ネムノキ, ハゼノキ, チャ, コブシ, ヤシヤブシ, アメリカブドウ, タブ, カナクギノキ, バリバリノキ, ユクノキ, ネズミモチ, ハリギリ, スギ, ヒノキ, サクラ, ネズコ, アカマツ, ゴヨウマツ, モミ, ツガと大変多く示されている(加辺, 1960). 県下に広く産する。

産地。川西市笹部[仲田, 1978, 1982]. 神戸市妙法寺(1ex., 29. V. 1979). 多可郡鳥羽(2exs., 29. IV. 1973)[奥谷, 高橋, 1976]. 宍粟郡音水(1ex., 13. VII. 1968). 氷上郡[山本, 1958], 柏原[YAMAMOTO, 20. VI; 22. VII. 1950, 加辺, 1960]. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953, MURAYAMA, 11. VIII. 1950, 加辺, 1960]. 氷の山(2exs., 25. VII. 1959)[TAKEUCHI, 27. V. 1953, 加辺, 1960].

48. *Pitophtharus jucundus* BLANDFORD, 1894

トウヒノヒメクイムシ

BLANDFORD により "Four specimens, near Nagasaki"産標本で新種記載された(1894).

加害樹種はクロマツ, アカマツ, モミ, トウヒ, エゾマツ, チョウセンハリモミが知られている(加辺, 1960). この属の種は日本ではこの1種が知られているだけである。兵庫県にも広く産する。産地。神戸市烏原(2exs., 29. IV. 1969). 多可郡鳥羽(10exs., 29. IV. 1972)[奥谷, 高橋, 1976]. 神

崎郡大河内町川上(2exs., 9. VI. 1977) [奥谷, 1976]. 宍粟郡福知溪谷(1ex., 16. VI. 1975, M. YUMA leg.). 城崎郡口佐津[MURAYAMA, 28. VII. 1948, 加辺, 1960], 竹野[MURAYAMA, 29. VII. 1948, 加辺, 1960], 香住[MURAYAMA, 29. VII. 1948, 加辺, 1960]. Hintani[MURAYAMA, 29. VII. 1948, 加辺, 1960].

49. *Ips acuminatus* (GYLLENHAL, 1827)

マツノムツバキクイムシ

加害樹種としてはアカマツ, カラマツ, チョウセンマツ, チョウセンカラマツが示されている(加辺, 1960).

産地. 兵庫・瀬戸内海斜面[村山, 1953].

50. *Ips cembrae* (HEER, 1836)

カラマツヤツバキクイムシ

加害樹種はカラマツ, アカマツ, グイマツ, チョウセンマツが知られている(加辺, 1960). 分布は結構広い.

産地. 養父郡氷の山(1ex., 25. VII. 1955) [高橋, 辻, 1974].

51. *Ips multidentatus* MURAYAMA, 1953

マツノトゲキクイムシ

加害樹種としてはアカマツが示されている(加辺, 1960). 野淵 輝博士は加害樹種はクロマツとしている(1984).

産地. 兵庫・下里[MURAYAMA, 23. X. 1950, 加辺, 1960]. 兵庫・瀬戸内海斜面[村山, 1953].

52. *Orthotomicus angulatus* (EICHHOFF, 1875)

マツノツノキクイムシ

加害樹種としてツガ, マツ属(*Pinus*), スギ, ヒノキ, イチイガシ(?)が示されている(野淵, 1984).

産地. 多可郡鳥羽(8exs., 6. IX. 1975). 城崎郡竹野[MURAYAMA, 29. VI. 1948, 加辺, 1960]. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953]. 兵庫・瀬戸内海斜面, 日本海斜面[村山, 1953].

53. *Orthotomicus laricis* (FABRICIUS, 1792)

カラマツホソクイムシ

加害樹種としてエゾマツ, アカマツ, チョウセンゴヨウが知られている(野淵, 1984). 分布は広く日本(北海道, 本州), サハリン, シベリア, カムチャツカ, 朝鮮半島, 中国, ヨーロッパが知られている.

産地. 兵庫・日本海斜面[村山, 1953].

54. *Orthotomicus proximus* (EICHHOFF, 1867)

マツカワノキクイムシ

加害樹種としてはアカマツ, クロマツ, ゴヨウマツが示されている(加辺, 1960). 日本では稀な種とされている(野淵, 1984). 兵庫県下には次の記録がある.

産地. Kobe[J. E. A. LEWIS, 村山, 1936, J. E. A. LEWIS, 5. X. 1923, 加辺, 1960]. 兵庫・日本海斜面[村山, 1953]. 宍粟郡山崎[MURAYAMA, 1. VIII. 1948, 加辺, 1960]. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953, MURAYAMA, 17. VIII. 1948, 加辺, 1960].

55. *Orthotomicus suturalis* (GYLLENHAL, 1827)

ホンスンキクイムシ

加害樹種, トウヒ, カラマツ, アカマツ, チョウセンゴヨウ, ハイマツが示されている(野淵, 1984).

県下の記録は次のとおりある.

産地. 兵庫・日本海斜面[村山, 1953]. 養父郡建屋[竹内, 村山, 1953. MURAYAMA, 30. VII. 1948, 加辺, 1960].

56. *Orthotomicus tosaensis* (MURAYAMA, 1950)

トサキクイムシ

加害樹種はアカマツ, クロマツが示されている(野淵, 1984).

分布も本州, 四国, 九州と日本特産種のようにある. 県下には次の記録がある.

産地. 城崎郡竹野[MURAYAMA, 29. VII. 1948, 加辺, 1960].

Subfamily Scolytophatypinae

キザハシキクイムシ亜科

57. *Scolytophatypus tycon* BLANDFORD, 1893

タイコンキクイムシ

加害樹種としてブナノキ, ヤマハンノキ, ヤマザクラ, タブ, カナクギノキ, キハダ, ヤマモミジが示されている(加辺, 1960).

分布は日本全国, 朝鮮半島, シベリア, 千島列島, サハリン, 台湾が知られている.

県下では扇ノ山の記録のみである.

産地. 美方郡扇ノ山[辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 辻, 1974].

兵庫県のキクイムシ類一覧リスト

Family Platypodidae ナガキクイムシ科

Subfamily Diaporinae トゲナガキクイムシ亜科

1. *Platypus lewisi* BLANDFORD, 1894

ルイスナガキクイムシ

2. *P. modetus* BLANDFORD, 1894

チュウガタナガキクイムシ

3. *P. quercivorus* (MURAYAMA, 1925)

カシノナガキクイムシ

4. *P. severini* BLANDFORD, 1894

シナノナガキクイムシ

Family Scolytidae キクイムシ科

Subfamily Scolytinae キクイムシ亜科

1. *Scolytus frontalis* BLANDFORD, 1894

ニレカワノキクイムシ

2. *S. japonicus* CHAPUIS, 1875

ニホンキクイムシ

Subfamily Hylesininae

カワノキクイムシ亜科

3. *Sphaerotrypes pila* BLANDFORD, 1894

ケブカマルキクイムシ

4. *Hylastes attenuatus* ERICHSON, 1836

マツノホソキクイムシ

5. *H. plumbeus* BLANDFORD, 1894

マツノヒロスジキクイムシ

6. *Hylurgops glabratus* (ZETTERSTEDT, 1828)

マツカバイロキクイムシ

7. *H. interstitialis* (CHAPUIS, 1875)

マツノスジキクイムシ

8. *Hylurgus lingniperda* (FABRICIUS, 1792)

マツノネノキクイムシ

9. *Tomicus minor* (HARTIG, 1834)

マツノコキクイムシ

10. *T. piniperda* (LINNAEUS, 1758)

マツノキクイムシ

11. *Alniphagus constatus* (BLANDFORD, 1894)

ハンノカバイロキクイムシ

12. *Phloeosinus lewisi* CHAPUIS, 1875

ヒバノコキクイムシ

13. *P. perlatus* CHAPUIS, 1875

ヒバノキクイムシ

14. *P. rudis* BLANDFORD, 1894

ヒノキクイムシ

15. *Polygraphus nigrielytris* NIJJIMA, 1935

ナナカマドノキクイムシ

16. *P. proximus* BLANDFORD, 1894

トドマツノキクイムシ

Subfamily Ipinae ザイノキクイムシ亜科

17. *Cryphalus fulvus* NIJJIMA, 1907

キイロコキクイムシ

18. *C. jcholensis* MURAYAMA, 1939

ネツカコキクイムシ

19. *C. laricis* NIJJIMA, 1909

カラマツノコキクイムシ

20. *C. piceae* (RATZBURG, 1837)

トドマツコキクイムシ

21. *Hypothenemus oblongus* (NIJJIMA, 1910)

アカマツノコキクイムシ

22. *Scolytogenes badius* (NOBUCHI, 1975)

クリイロコキクイムシ

23. *S. expers* (BLANDFORD, 1894)

タブノコキクイムシ

24. *Trypodendron signatum* (FABRICIUS, 1782)

カシワノキクイムシ

25. *Crypturgus pusillus* (GYLLENHAL, 1813)

トウヒノホソキクイムシ

26. *C. tuberosus* NIJJIMA, 1909

- カバイロホソキクイムシ
27. *Drypocetes pini* NIIJIMA, 1909
ハイマツアトマルキクイムシ
28. *D. rugicollis* EGGERS, 1926
アトマルキクイムシ
29. *D. striatus* EGGERS, 1933
トドマツアトマルコキクイムシ
30. *Poecilips cardamomi* (SCHAUFUS, 1905)
クリノミキクイムシ
31. *P. graniceps* (EICHHOFF, 1877)
ドングリキクイムシ
32. *Cnestus murayamai* SCHEDL, 1962
ウスキイロキクイムシ
33. *Xyleborus adumbratus* BLANDFORD, 1894
ツヤナシザイノキクイムシ
34. *X. amputatus* BLANDFORD, 1894
ツヅミキクイムシ
35. *X. aquilus* BLANDFORD, 1894
アカマツザイノキクイムシ
36. *X. atratus* EICHHOFF, 1875
クワノキクイムシ
37. *X. defensus* BLANDFORD, 1894
シイノホソキクイムシ
38. *X. lewisi* BLANDFORD, 1894
ルイスザイノキクイムシ
39. *X. mutilatus* BLANDFORD, 1894
クスノオオキクイムシ
40. *X. praevius* BLANDFORD, 1894
センダツキクイムシ
41. *X. rubricollis* EICHHOFF, 1875
アカクビキクイムシ
42. *X. saxeseni* (RATZBURG, 1937)
サクセスキクイムシ
43. *X. seriatus* BLANDFORD, 1894
ハンノスジキクイムシ
44. *X. takinoyensis* MURAYAMA, 1953
タキノヤキクイムシ
45. *X. volvulus* (FABRICIUS, 1775)
ユズリハノキクイムシ
46. *Xylosandrus crasiussculus* (MOTSCHULSKY, 1866) サクキクイムシ

47. *X. germanus* (BLANDFORD, 1894)
ハンノキクイムシ
48. *Pityophytharus jucundus* BLANDFORD, 1894
トウヒノヒメキクイムシ
49. *Ips acuminatus* (GYLLENHAL, 1827)
マツノムツバキクイムシ
50. *I. cembre* (HEER, 1836)
カラマツヤツバキクイムシ
51. *I. multidentatus* MURAYAMA, 1953
マツノトゲキクイムシ
52. *Orthotomicus angulatus* (EICHHOFF, 1875)
マツノツノキクイムシ
53. *O. laricis* (FABRICIUS, 1792)
カラマツキクイムシ
54. *O. proximus* (EICHHOFF, 1867)
マツカワノキクイムシ
55. *O. suturalis* (GYLLENHAL, 1827)
ホンスンキクイムシ
56. *O. tosaensis* (MURAYAMA, 1960)
トサキクイムシ

Subfamily Scolytophatypinae

キザハシキクイムシ亜科

57. *Scolytoplatypus tycon* BLANDFORD, 1893
タイコンキクイムシ

<参考文献>

- 研究史に示した文献は省いてある。
井上元則(1953)「林業害虫防除論・中巻」
(地球出版株式会社・東京)
三輪勇四郎(1938)「日本甲虫分類学」(西ヶ原刊行
会・東京)
村山醸造・新島善直(1950)「日本昆虫図鑑・改訂
版」(北隆館・東京)
中根猛彦(1963)「原色昆虫大図鑑・第2巻, 甲
虫」(北隆館・東京)
野淵 輝(1984)「原色日本甲虫図鑑(IV)」(保育社
・大阪)
竹中英雄(1975)「学研 中高生図鑑 昆虫Ⅱ・甲
虫」(学習研究社・東京)

(Ⅶ・1997)